

一緒に成長できたね

そらのくみ　○○　○○

我が家には8歳の○○と6歳の○○がいます。二人とも満3歳からむらさき幼稚園にお世話になっています。

○○は入園式の数日前に入園が決まり、入園式は事情があり参加できなかったので、何もわからないままでの入園は本当に不安だったと思います。更に新型コロナの影響で休園・分散登園と思うように登園出来ない日々でしたが、ドキドキしながらも行き渋ったりすることはなく登園してくれました。初めは自分の気持ちを伝えることが苦手で伝えることが出来ずモヤモヤした事もあったようですが、先生方が一人一人のペースを大切にし見守ってくださったおかげでむらさき幼稚園が安心出来る場所となり、周りとの信頼関係もでき、『自分の思いをはっきり伝える』ことが出来るようになりました。小学生になった今、クラスの中では頼れる存在になっているそうでクラスの友達同士がぶつかり合った時に仲裁に入ったりすることもあるようです。これもむらさき幼稚園で培った『自分の思いをはっきり伝える』ことが繋がっているのかなと思っています。

一方の○○は0歳10ヶ月の時に保育園へ入園しました。しかし慣らし保育期間中にけいれんを起こし救急搬送されました。熱はなかったのですが可能性が0ではないのでコロナの検査もすると言われました。当時の検査は結果が出るまで一日かかり、濃厚接触者は自宅待機になる時代で何と翌日は○○の入園式だったので検査を受けるか本当に悩みましたが、検査を受け結果は陰性、その後の精密検査でも異常はなく泣きすぎたことによる憤怒けいれんという診断でした。その出来事がきっかけで保育園を退園し、満3歳でむらさき幼稚園に入園する時は○○の時とは違った心配があったのですが、泣かずにバスに乗ってくれたことに成長を感じたことを今も覚えています。やはり入園当初は○○の遊びに混ぜてもらうことが多かったのですが、1ヶ月経つとクラスメイト同士での関わりがぐっと増えました。輪が広がったことにより、気持ちがぶつかり合い涙を流すこともありましたが、幼稚園が安心できる場所になっていきました。

年中になると他のお母さんから「○○ちゃんがいつも面倒見てくれるんです！」と声をかけていただく事が増えました。もちろんうれしいのですが、家では常にパパかママのひざの上に乗ってくる、まだまだ甘えん坊の赤ちゃんだと思っている私からすると本当に○○が!?と声をかけていただく度におどろいています（笑）

この『面倒見の良さ』も成長したことの一つだと思います。最初はただ面倒見の良い姉・○○の真似事をしているだけだと思っていましたが、むらさき幼稚園では満3歳と満4歳が同じ年少クラスになります。自身が満3歳の時に年長や年中だけでなく、同じクラスのちょっぴりお姉さん・お兄さんの満4歳の子が助けてくれる経験をします。その経験があるから、自身が満4歳になった時、当たり前のように年下の子や友達を助ける！それの積み重ねが『面倒見の良さ』につながったのかなと思っています。

年長になり、年長だけの行事や話し合いの場が増えましたが積極的に参加しているようです。家では「今日はだれと遊んだの？」と毎日聞くだけなので、毎月担任の先生からいただく手紙には私の知らない○○の姿がたくさんあり、最近おどろいたのが先頭に立ち引っ張っていく姿が見られること。もう赤ちゃんじゃないなと少しさみしくもありました（笑）毎月手紙を読みながら○○したの？と聞くと、いつもはずかしそうに頷く○○が可愛くて、毎月の定番となっています。もう卒園まで数か月なので最後まで、その定番を楽しみたいと思います！

今回おやおやを書かせていただいたのですが一度お断りしました。文章を書くのが苦手だからです。しかし今回もう一度お話をいただき挑戦してみることにしました。これは私にとって成長です（笑）親子でむらさき幼稚園には成長させてもらいました！ありがとうございます。

